

優 秀 賞

「忘れたくないモノ」

愛知県立半田工業高等学校 土木科 3年
今 西 政 宗

私にはこの先、忘れたくない二つの光景と一つの景色があります。

はじめは、本校の体験入学で見た、二台のパワーショベルが掘削の作業をしている光景です。小型車両系建設機械の実技練習で、操縦していたのは作業服を着た生徒でした。当然ですが、彼らの操縦は近所の工事現場で見た動きには程遠く、動きが粗く、緩急の差が激しかったです。しかし、操縦者の方をよくみると、真剣な顔で手元のレバーを操作していました。私はこの時、将来について、自分は高校を卒業したらこのままよく知りもしない会社で働いていったりするのかなどと考え将来に対して不安になっていました。しかし、あの真剣な顔を見た時に、月並みな言葉ですが全ての不安が意味の無いことだったと思い直しました。実技練習の見学は数分で終わってしまいましたが、あの姿に憧れを持ち、私は土木建築の世界に入ろうと決意しました。

そんな決意で本校に入学した私は、二年生になり、就職という文字が頭の隅でちらつく時期になったころ、その就職について悩みが出てきました。それは、今まで専門科目の授業を受けてきて、知識については身に付いてきたのはいいのですが、現場を知らないため、何がどう使われているかが分からず、就きたい職業の具体的なイメージができないでいました。そこで私は、インターンシップに参加することにしました。三日間のインターンシップの中で、色々な現場を見て周り、社員の方の説明を聞いたりできました。その中で私は自分の描いていたイメージと違うところがありました。自分の勝手なイメージで大ざっぱにごっそりと彫っていくのを想像していたのですが実際はレベル測量等で高さを測り、水道管などの

埋設物にも注意をして、回数を分けて作業を行っているのに驚きました。特にパワーショベルでのセンチ単位の精密な掘削は、技巧の高さにそんなことが可能なのかと衝撃を受けました。また、工事が終わって、撤収作業の中で掃き掃除を行ったのですが、作業員の方たちが作業していた区間を越えて掃除を行っている光景は忘れられません。葉っぱが一枚も残っていない道路は、新しいアスファルトの黒色がとても綺麗だったので、私はこの掃除の光景を多くの人に知ってほしいと思いました。

そして私は、三年生になり希望の就職先を見つけて会社見学へ行きました。あいにく、前日の台風の影響で作業風景は見ることはできなかったのですが、完成間近の高速道路を見せていただきました。私は、とても感動しました。中央分離帯もセンターラインも無い、ただただ、真っ直ぐにアスファルト一色のみの道路が続く景色は、冗談ではなく本当に一生に一度は見た方がいいと思えるものでした。自分が関わっていないこの景色であの感動なら、自分が関わったならと考えた私は、「この景色を自分が造りたい」と強く思いました。そして、この景色を私の一生涯の目標に決めました。

私は、この景色と光景に出会えてよかったと感じています。自分がこれから働く世界にこんなにも素晴らしい景色や光景があることで、探してみたくになりますし、自分が造りたくもなります。「3K」と呼ばれるこの世界にも、それを鼻で笑い飛ばせる位綺麗なものがあると誇りを持って仕事ができると思います。これからは人々の生活を支えているこの世界の先輩方と肩を並べられるように必死に食い付いていきます。